

## 第 201 回山梨大学医学会例会

日時：令和 5 年 7 月 26 日（水）午後 4 時 10 分～5 時 10 分

会場：管理棟 3 階大会議室

### 教授就任講演

## ホルモン作用から紐解く内分泌・代謝疾患の分子機構

土屋恭一郎

山梨大学医学部糖尿病・内分泌内科

司会 小泉 修一教授

### 【要旨】

私はこれまで、ホルモン作用の観点から、内分泌・代謝疾患に合併する臓器機能異常に関する研究に従事してきました。大学院博士課程では、レニン・アンジオテンシン系による脂肪細胞由来内分泌物質の制御機構を学位論文として発表し（*Am J Physiol Endocrinol Metab* 2005）、原発性アルドステロン症（*Endocr J* 2009）およびクッシング症候群（*Endocr J* 2010）においてホルモン過剰と血管内皮機能障害が相関することを明らかにしました。米国コロンビア大学では、インスリン作用により活性が負に制御されるフォークヘッド転写因子（FoxO）が、血管内皮細胞において動脈硬化を強力に促進することを示し（*Cell Metab* 2012）、糖尿病合併症の分子機構をインスリン作用の観点から明らかにしました（*Circ Res* 2013 等）。留学後は、肝類洞内皮細胞と白血球の接着を介した肝臓の新規糖代謝調節機構を発表し（*Cell Rep* 2017）、脂肪組織と肝臓の臓器連関を介した脂肪肝の発症機序を明らかにしました（*PLOS ONE* 2016 等）。2018 年に山梨大学に入職後は、脂肪組織由来内分泌物質を介した肥満に伴う血管障害（*Cardiovasc Diabetol* 2019）と腎障害（*Int J Mol Sci* 2021）の機序を明らかにし、現在もホルモン作用の観点から内分泌・代謝疾患の病態解明と医学応用を推進すべく、研究に従事しています。